



日本プライマリ・ケア連合学会
関東甲信越ブロック支部 活動報告

発行人
関東甲信越ブロック支部長
西村 真紀

ニュースレター No. 12 (2015. 12)

1. 議員総会のご報告

関東甲信越ブロック支部支部長 西村 真紀

2015年11月29日(日)新潟大学有壬記念館2階大会議室にて平成27年度第二回議員総会が開催されました。代議員選挙の結果や当日開催された地方会の様子が報告されました。また来年度の地方会の進捗について、2016年11月27日(日)群馬県社会福祉総合センターにて開催されると群馬県支部より報告されました。協議事項としては今年度地方会の補助金、それに伴う修正予算案、都県支部活動費の繰り越し、繰越金の使用用途について話し合われました。また平成29年度地方会は埼玉にて開催の予定となりました。

詳細はホームページに掲載されます議事録をご覧ください。

http://www.primary-care.or.jp/shibu/shibu_kaku.html

*日本地図の関東甲信越をクリックし、「関東甲信越ブロック支部」よりお入りください。

2. 第4回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会開催のご報告

新潟大学 総合地域医療学講座 井口 清太郎

2015年11月29日(日)この時期の新潟らしい悪天候の中、新潟大学内の新潟医療人育成センター及び新潟大学大講義室、有壬記念館を会場に第4回日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会を新潟県支部主催により無事開催することができました。また日本海側では恐らく初となる指導医養成講習会も同じく新潟大学総合研究棟臨床技能教育センターを会場に本会の主催により行われました。参加者は医師153名(うち20名は指導医養成講習会も参加)、薬剤師11名、歯科医師2名、看護師2名、その他12名、さらに指導医養成講習会のみ参加した医師10名の合計190名からの参加を得ることができました。これもひとえに会員の皆様からのお力添えがあつてのことと思います。この場をお借りして諸会員の皆様に感謝申し上げます。

今回の地方会では、これまでに無い初めての試みとしてポスターセッションを行いました。3セッションに分かれてそれぞれ7-8演題の発表がありましたが、いずれも多数の方に聴衆として参加頂きました。ことに前期研修医の発表の場として症例報告はもとより、臨床に関する様々な発表を見ることができました。会場のここそこで熱いディスカッションを聞くことができ今地方会の中でもっとも盛会であった時間帯でもありました。来年度以降も是非、若手の発表の場としてもポスターセッションが継続されることを願っております。

またワークショップやミニシンポジウムでは地域包括ケアに向けて多職種協働に関するもの、生の鶏肉を用いた救急のTIPSについて、嚥下内視鏡を用いての実践的な評価法、プライマリ・ケア看護師養成に関する話題など、明日からの臨床でもすぐに生かせる内容が盛りだくさんであったと思います。

午後5時の閉会式まで残る方は、そう多くはなかったのですが、多くの皆様が関東へ戻られる時間を考慮すると致し方なかったところかも知れません。閉会式の最後には来年度開催予定の群馬県支部の高柳先生からも

ご挨拶を頂き、無事閉会といたしました。

初めてのこと故にいろいろと至らない部分もあったかと思いますが、盛会のうちに終えましたこと、参加された皆様に改めて御礼申し上げます。

3. 都県支部からの報告

【群馬県支部活動報告】

群馬県支部長 高柳 亮

あわただしい師走となり、会員みなさんにおかれましては何かとご多用のことと存じます。群馬県支部の高柳です。来年の第五回関東甲信越ブロック地方会の日程と会場が決まりましたのでお知らせいたします。

昨年から今年にかけて、ぐんまでは三つの大きな出来事がありました。

一つ目は「富岡製紙工場ならびに絹産業遺跡群」が世界遺産に登録されたことです。二つ目はご存知「ぐんまちゃん」が悲願であった、ゆるきゃらグランプリの王者に輝いたことです。三つ目は群馬県初代知事楫取素彦の妻を主人公にしたNHK大河ドラマ「花燃ゆ」が絶賛放映中であることです（低視聴率ですが・・・）。

このように最近注目のぐんまではありますが、来年はいよいよ、日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック地方会を三学会合併後はじめて、ぐんまで開催させていただくことになりました。みなさまにおかれましては、是非ぐんまの地で多いに学び、多いに遊び、ぐんまの魅力に触れていただきたいと思います。

お二人の魅力的な講師にお越しいただくことも決まりました。家庭医として、教育者として多方面で活躍され、最近では「ヤブ化」しないためのノウハウなど医師の生涯学習について積極的に発信を続けている藤沼康樹氏、介護の現場に身を置き、様々な実態調査をもとにイノベーションを追及し、地域包括ケアについて積極的に提言されている堀田聰子氏のお二人です。

新しい専門医制度を目前に控え、私たちの学会の果たすべき役割はますます大きくなってきております。多くの会員みなさんが手を携えて前に進めるように、様々な職種、様々な世代がそれぞれに楽しく学べて、互いに交流できる地方会になればと考えております。

来年ぐんまでお会いできるのを楽しみにしております。

開催日： 2016年11月27日（日）

開催場所：群馬県社会福祉総合センター（新前橋駅から徒歩5分）

大会長： 高玉 真光（老年病研究所附属病院院長）

テーマ： 多職種協働と在宅医療

参加予定講師：（2015年12月1日現在）

医療福祉生協連家庭医療開発センター センター長

千葉大学専門職教育研究センター 特任講師

藤沼 康樹 氏

国際医療福祉大学大学院 教授

堀田 聰子 氏

【茨城県支部活動報告】

茨城県支部長 今高 國夫

「いばらき医療福祉研究集会」が10月25日つくば国際大学で開催され、医療・保健・福祉関係職の450名の参加。(一社茨城県保険医協会とプライマリ・ケア連合学会茨城支部をはじめ17団体が共催)テーマは「より良く食べるはより良く生きる～「食いたい」を支える多職種連携。一般演題は34題。メインの日本歯科大学教授・口腔リハビリ専門の菊谷 武先生が実践を講演。医師、歯科医師、作業療法士、摂食嚥下認定看護師、言語聴覚士、管理栄養士、老健職員、居宅介護支援事業者が登壇、当学会茨城支部の奥野氏の指定発言あり、それぞれの立場からできることについて討論し会場が盛り上がった。筑波大学精神医学 新井哲明准教授によるセミナー「認知症の最新医療と今後の展望」では、レビー小体型の明解な画像が示され好評であった。当学会茨城支部長の今高氏が座長。コモンデジーズ研究「口腔乾燥症の診断と治療～医科・歯科それぞれの視点から」は専門医による興味ある話であった。なお、常総市「きぬ医師会病院」の水害の実態について、平野千秋氏当学会茨城支部会理事によるポスター提示があり、診療再開のめどがつかない中、努力している姿に大勢がくぎ付けになった。

別報：内容の充実した支部認定単位講座として、柳久子先生（筑波大福祉医療学・支部事務局長）の尽力で保健・医療・福祉に関する勉強会を年数回開催しています。

【東京都支部活動報告】

東京都支部長 鈴木 央

皆さま、東京都支部の責任者をしております日本プライマリ・ケア連合学会理事の鈴木央と申します。東京都支部は会員数が多く事務作業も膨大となるため、支部単独での動きがなかなかとりづらいため、会員の先生がたにはご迷惑をおかけしております。現在、名簿の整理をはじめ、単独での集会開催のために動き始めたところです。

その最初の機会として第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術集会(東京都浅草開催)において、東京都支部として「東京都の地域医療」を題材にシンポジウムを組む予定です。東京都は、大都市圏特有の様々な問題とともに、島しょ地域や奥多摩地域の過疎地域も抱え、どのように地域医療を進めていくか大変難しいエリアです。東京都医師会とも協力を得ながら地域医療として本学会、本支部がどのように地域医療を進めるのか議論していきたいと考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

【神奈川県支部活動報告】

神奈川県支部 幹事 加藤 佳央
会長 松田 隆秀

今年度も学術集会を2回開催いたしました。どちらの学術集会も多職種の参加も加わり実りある集会となりました。

○日本プライマリ・ケア連合学会神奈川県支部 第95回学術集会
シンポジウム『医療と介護の連携ツールを考える』

地域包括ケアシステムに関わる職種のそれぞれの立場からご講演いただき、議論を進め、成果物が得られる

集会となりました。演題は1『多職種連携の必要性』岡田孝弘先生、2『連携ノートを利用した多職種連携』鶴見区医師会在宅部門看護師 栗原美穂子先生、3『医療情報の薬剤師への提供』日横クリニック 鈴木悦朗先生でした。

○第17回神奈川総合診療研究会（神奈川総合診療研究会との合同企画）

帝京大学ちば総合医療センター リウマチ内科萩野昇先生から『関節炎の鑑別診断』の演題で、筋・骨格軟部組織の診察について、**Hand-on session** を交えてわかり易く解説していただき「プライマリ・ケア整形内科」の必要性を改めて認識させられました。

以上、今後も多職種の方にも開けた活動を行い、地域医療を支える学術集会を企画して参ります。

【埼玉県支部活動報告】

埼玉県支部長 中根 晴幸

まず11月19日に開催された埼玉県支部第9回例会の状況を報告します。

今年度より、従来得られていた企業協賛に頼らず、運営主体が全面的に私ども埼玉プライマリ・ケア（以下PC）連合研究会に移管されたことから、準備の上で多々工夫し関係者にも特段のご協力をいただきました。特に埼玉医科大学地域医学・医療センターの大野洋一先生には事務局をお願いしたところ、教室を挙げてご支援いただき感謝しております。連絡方法を従来は県内会員に例会案内を郵送していたのを取りやめ、日本PC連合学会のネット連絡を公式のものとし、学会員以外の従来の参加者、協力機関に対しては直接の連絡を行ないました。結果としては参加者減少はなく、むしろネット上のPRに好反応があり従来より広域の参加者を得ました。100名規模で用意した会場があふれそうになり、参加者が89名、会場整理ボランティアを含めるとちょうど満杯の盛会でした。県内会員へのPR改善が期待された、その第一段階は成功したと思われま

す。今年も関東甲信越ブロック支部長の西村真紀先生のご参加、ご挨拶をいただきました。今回のテーマは「埼玉県の地域包括ケア推進ー動き始めた多職種連携の実例と課題」とし一般演題に県薬剤師会、看護協会、浦和医師会からの発表に加え、熊谷、深谷など県北部でのプライマリ・ケア活動推進に取り組まれる青木康弘先生にも発表いただきました。特別講演には地域包括ケア推進における「埼玉県独自の課題点」について、城西大学の伊関友伸教授より広い視野から目の覚めるような解説をいただきました。埼玉県の特質として「医療が手薄なこと日本一」というハンディを負う一方で、高齢化のスピードも我が国トップで、多くの地域で「まだ見えない明日の大問題」に備えねばならないことを再認識。医療・介護専門職に限らず、地域の人々が共通の問題意識を持って住みよい地域を作る必要があるとの話に感銘を受けました。運営も時間通りに進み19時より21時10分まで有意義な時間を過ごしました。

そのわずか10日後、11月29日に関東甲信越ブロック地方会が新潟で開催され参加しました。寒くてあられが降る天候でしたが、運営はスマートで参加者も多く、熱いディスカッションが印象的でした。昼に開催されたブロック支部議員会では平成29年度地方会開催の地区決定が議題となり、私ども埼玉県支部がお引き受けすることに決まりました。具体的なことはこれからですが、皆様のご期待に応えられる様な学会開催を目指したいと思っておりますので、よろしくご指導、ご支援お願い申し上げます。

【長野県支部活動報告】

長野県支部 支部長 古川 善行
事務局 総務理事 佐藤 裕信

1:長野県支部設立総会・記念講演会を2015年5月17日に厚生連篠ノ井総合病院あい講堂を会場に西村真紀
ブロック支部長ご出席のもとに開催した。

参加者約80名、一般演題5題、信濃毎日新聞社編集委員で科学ジャーナリストの飯島裕一氏による
「プライマリー医への期待—医学・医療取材を通じて思うこと」と題した記念講演を行った。

長野県支部会員は11月現在で約130名、内約20名は連合学会非会員であるが、会の活動を通して連合
学会に関心を持って貰いたいと考えている。

2:第2回支部総会は中信地区担当で2016年7月9日(土)13:30より信州大学医学部旭総合研究棟会議室
A-Bを会場に西村真紀関東甲信越ブロック長による特別講演と一般演題(ポर्टフォリオ形式)を予定し
ている。

長野県支部の主催ではないが、支部発足以前よりあった北信地区中心の長野プライマリ・ケア研究会の
活動として以下の活動を行った。

3:第5回長野プライマリ・ケア研究会

長野県支部東信地区と共催で佐久平交流センターを会場に「在宅医療と多職種連携」テーマに特別講演
とシンポジウムを行い参加者は約80名であった。

4:第6回長野プライマリ・ケア研究会

北信地区で厚生連北信病院さくらホールを会場に約70名の参加者のもと「認知症を地域で支える」を
テーマに特別講演とシンポジウムを開催した。

活動方針

長野県は山間部で広いため4地区に分かれているため、それぞれ各4地区で実践的活動を中心に行い、年に
一度の総会術総会を各地区が交代で幹事として開催していく計画である。

関東甲信越ブロックでは、ニュースレターにてブロック会員の皆様の活動報告なども掲載する予定です。掲載
希望の方は以下メールアドレスまでご連絡いただければと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会 関東甲信越ブロック支部 事務局

kanto_koshinetsu@primary-care.or.jp
